

米CPIは依然高水準、FRBは難しい判断を迫られる

ポイント① 金融不安が高まる中でのCPI発表

FRB（米連邦準備制度理事会）は2022年3月から利上げを開始し、6月からは量的引き締めを始め、金融引き締めの影響が景気減速だけでなく、米銀の破綻にも波及しているようです。FRBは金融システムの安定化とインフレ鎮静化の両立へ難しい判断を迫られています。そのような状況下で注目が集まる2月の米CPIが3月14日に発表されました。CPIは総合で前年同月比6.0%上昇と8か月連続で伸び率が鈍化。変動の大きい食品とエネルギーを除くコアCPIは同5.5%と前月の5.6%を小幅に下回りましたが、いずれも依然高い水準となっています。

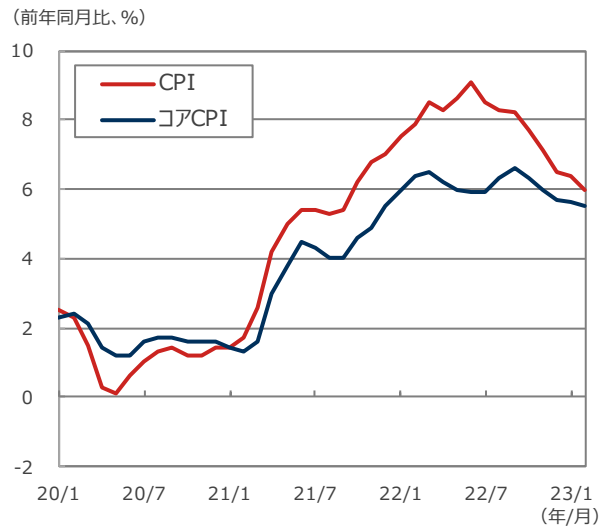
ポイント② 堅調な賃金でCPIを下支え

米国の堅調な賃金動向を背景に、サービス価格（除く食品、エネルギー）の上昇が加速しており米インフレの鎮静化を遅らせています。とくにCPIへの影響が大きい家賃の上昇がサービス価格の上昇をけん引しています。一方、エネルギー価格や中古車価格などが順調に鈍化しており、CPI全体を押し下げています。

ポイント③ 次回FOMCに注目集まる

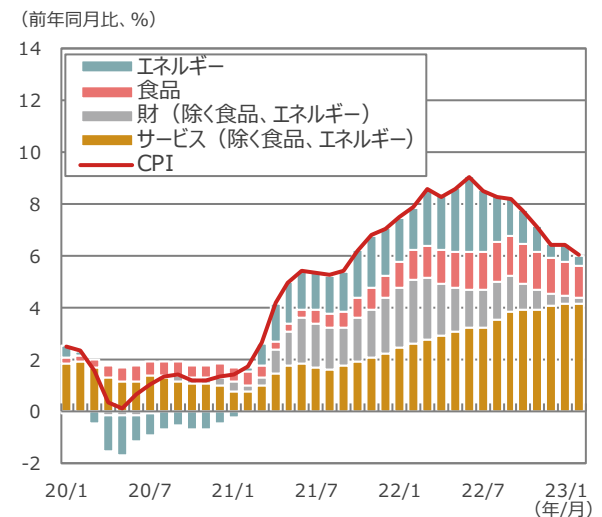
CPI発表後、米2年国債利回りは前日比で上昇、円相場は一時1米ドル = 134円台後半まで円安・米ドル高が進みました。金融システム不安により、市場では利上げ予想が後退していましたが、今回のCPI発表を受けて、利上げ継続の見通しが強まったと考えられます。金融システムの安定化とインフレの鎮静化の狭間で、21～22日のFOMC（米連邦公開市場委員会）でどのような判断が下されるのか、FOMCメンバーによる経済見通しやパウエル議長による記者会見に注目が集まります。

米CPI（消費者物価指数）の推移



期間：2020年1月～2023年2月、月次
 (注) コアCPIは食品、エネルギーを除く
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米CPIの項目別寄与度の推移



期間：2020年1月～2023年2月、月次
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント	3月22日	米金融政策発表
	3月31日	米PCE（個人消費支出）デフレータ（2月）